

1. みりんは堀切、秋元どちらが古いのかとのお客さんからの質問には、わかりませんとしか回答できないのか。同じ頃と答えて良い。
2. 二社の味、製造方法、生産高の比較表はないか。
「相模屋堀切紋次郎家文書の概要」川根正教に流山村の酒造高推移表があり、幕末時は堀切紋次郎 3650 石、秋元三左衛門 1700 石、永岡三郎兵衛 1100 石とある。
秋元家文書（慶応 4 年）には、紋次郎 3650 石、三左衛門 2000 石、次郎右衛門（嶋屋） 1100 石とある。
3. 関西のみりんは黒いといわれるが運搬中の変色が原因ではないか、もともとは黒くないのではないか。
みりんは、経時変化で色が赤くなる。製法により最初から赤いものもある。
4. 関西のみりんは「雑菌が入って腐ったもの」と説明している人がいるが、言い過ぎではないか。
「雑菌が入って腐ったもの」は言い過ぎである。製法により最初から赤いものもある。
5. 二代目紋次郎が野田の高梨家の後援を得てみりんの試醸に成功し、万上みりんを開発したと聞いているが堀切家と高梨家はどのような関係か。キッコーマンと万上みりんの合併にも関係しているのか。
初代紋次郎の妻八重は、3代茂木佐平治の次女であり2代高梨平左衛門の孫にあたる。
大正6年に6代紋次郎が高梨家の娘あさと結婚し、高梨家の出資を受けて万上味淋株式会社を設立した。
同年に高梨家と茂木一族七家が野田醤油株式会社を設立。
大正14年、万上味淋株式会社は、野田醤油株式会社（現キッコーマン株式会社）と合併
6. みりに焼酎を入れるのか。入れないのか。
当時の製法では、焼酎を入れていた。入れるもの入れないもの両方あった。
みりん製造業者は、秋元、堀切だけではなく他の地域にもあった。それぞれの家伝の製法があったので一概に言えない。
7. 流山におけるみりんの製造年月。秋元家と堀切家でみりんを開発製造販売した年代。
流山のみりん製造については、創業時の古文書が秋元家には残されていないので、製造販売年月は不明。
ただし、堀切家の古文書は調査が開始されており、これからの調査結果が待たれる。
販売した時期は、「野田醤油株式会社二十年史」に文化11年（1814年）開始と記述されている。
8. まちなかミュージアムの歌川広重の絵の説明をどうしたらよいか
文化・文政時代に江戸庶民文化が花開き、祭りなど人が集まる場所に屋台が出た。
当時の砂糖は値段が高かったため、甘味料としてみりんを煮詰めたものが使われた。（屋台でのウナギや団子のたれ）
9. みりんの生産量シェア
令和4年統計では千葉県（43%）兵庫県（11%）、愛知県（9%）
千葉県の中で、キッコーマンのシェアは

1. 庚申待ちを3年18回行くと三尸の虫が死ぬと説明しているが、これで良いか。
また、「守庚申を7回続ければ三尸の虫が死ぬ」と流山庚申塔探訪P6に書いてあるが、これで良いか。
・道教では7回で三尸の虫が死ぬ。室町期の山王信仰では3年18回で3世にわたり六道に落ちないといわれている。江戸時代の流山では、行われた形跡がない。つまり、断定した回数を言わない。
道教では7回で三尸のムシは死ぬ。室町期の庚申因縁起では道教の教えはなくなり、3年18回で3世にわたる6道の罪を消し、極楽に行けるといふ仏教の教えになる。江戸時代は時代や地域で信仰形態が変化したが、流山では回数を行った形跡はない。従って回数のことと言わない。
2. 庚申塔を建てたのは、初めて庚申講を結んだ時とか一定の回数や期間の庚申待ちを無事終了した時に記念として建てたとの説明で良いか。
江戸期の流山市域では、三尸や守庚申の回数は確認されていない。また信仰で信仰対象物がない信仰は、ありえないから講を結んだ時と考えられる。
吉野家文書に「新たに庚申塔ができて、3日後に中のお寺（旧長福寺）の方丈で供養を行った」とある。
また、供養前にお参りに来た者を断った様子が書かれている。
供養は入魂供養で、その後にしかるべき所に建立され信仰の対象になった、と考えられる。

閻魔堂

1. 金子市之丞を義賊として説明して良いのか。また適切な説明内容は。
金子市之丞は、講談と歌舞伎と伝説で伝えられているが、ガイドの会としては伝説を説明するので義賊として扱う。
2. 金市義賊の根拠はなにか。文芸上の表現のみか。
伝説に義賊としてある。根拠がないから伝説、根拠があれば史実である。
3. 閻魔堂の創建は「流山のむかし」では不明、一方閻魔堂チラシでは1776年となっている。どちらか。
創建は江戸中期と伝わり、現在の建物は明治43年に再建したものである。
4. 流山六軒百姓の6軒とは。
下記の通りといわれている。
流山市史研究「近世流山村の成立」松下邦夫より：

(1) 平井家（平太郎）	根郷 寺（広徳寺）	墓地（閻魔堂）
(2) 平井家（敬一郎）	根郷 寺（広徳寺）	墓地（閻魔堂）
(3) 須藤家（勲）	根郷 寺（常与寺）	墓地（常与寺）
(4) 石川家（与吉）	西平井 寺（常与寺）	墓地（常与寺）
(5) 寺田家（英一）	根郷 寺（光明院）	墓地（閻魔堂）
(6) 某（不明）	加	

 () 内の名前は松下邦夫氏が調査した時の当主の名前である。

1. 分宿先の人数は？ 何か 記録があるのか。

不明

2. 流山での新政府軍との交戦は全くなかったのか。あれば負傷者、損害は？

恩田家文書、吉野家文書によると、交戦があったと書かれているが、下記については、聞き書きであり詳細は不明であるので参考程度にする。

- ・恩田家の文書によると、「諸所で双方が合戦となり、にわか仕立ての軍であるため江戸方は不意を打たれて大敗し、ついには降参した」とある。
- ・吉野家文書では、「官軍方大砲2挺発した。歩兵方は加村高山へ登り砲発5,6放した。加村や流山根郷の商人や老人子どもなど騒ぎ立てた」とある。 「古文書にみる新選組と流山」田村資料

3. 滞在中、地元民との交流（酒宴、飲食）はなかったのか？

不明である。

4. 鴻池の名前が出てくるが、永岡屋との関係はどうか。

永岡屋の屋号が鴻池であるという説がある。

小松原文書では鴻池儀兵衛方に駐留とある。

永岡三郎兵衛が、穀物仲間に仲買として参入する際の請け人に、鴻池由太郎の名前がある。

詳細は、質問者が調査し、定例会で発表して欲しい

- ・流山に関する鴻池には栄助、由太郎、儀兵衛がいるが全て屋号である。
- ・鴻池儀兵衛の姓は永岡である（文政9年許可）。
- ・三郎兵衛が永岡姓になったのは慶応元年、三左衛門、紋次郎らと許可になった。
- ・儀兵衛は三郎兵衛の主人筋との説もある。

5. 新政府軍に一気に取り囲まれることになったのは、新選組の殆んどが訓練に行っていたと聞くがどうか。

隊士達は光明院や流山寺等にいたと思われるが記録が残っていないのでわからない。

6. 来流の説明は、メインは〇〇で他には△△、□□との説明でどうか。（個人によって異なるのを避けたい）

新政府軍との接触を避けるため移動したと思われるが、来流の理由はわからない。

7. 新選組といえば、やはり京都時代を想像してしまう。何かそれとは違うというイメージ、言葉をうまく伝えられる表現ができないか。人寄せ、キャッチフレーズには新選組はいいが、史跡ガイドとしては誤解を与える

「新選組と流山」について説明するのであって、新選組を説明するのではない。「**新選組局長の近藤と副局長の土方の別離の地**」として、**流山を中心にガイドを組み立てるべきである。**

8. 小西屋に残る刀剣等の写真を活用し、説明の話題性として使えないか。

小西屋さんに迷惑がかかるのでやめた方がよい。

銃刀法の管理下にあり、あまりオープンにはできない。

9. 秋元家土蔵と本陣は直接関係ない。本陣説明時に不要ではないか。

お客さんはこの土蔵が新選組の本陣と思い込んでしまうので、当時はこの土蔵は無かったという説明はした方がよい。本陣と誤解しないように説明する。ついでに国登録有形文化財に指定されたことを付け加える。

10. 江戸川を渡るとき、大砲なども馬舟を使ったと説明をしたいがどうか。大勢の隊員、物資をどのようにして流山に持ち込んだのか（ルートは必要ないが）

幕末当時、丹後の渡しには三艘の馬船という渡し船があつて、馬なら4, 5頭、人なら4, 50人、大砲なら3門乗せることができた。 「流山の江戸時代を旅する」 P58

お客様の目的にあった説明が必要で、必要と思ったら大砲を馬船で運んだことも説明してよい。

11. 4月3日、午後3時～8時の長時間、新政府軍と何があつたのか。新政府軍としては何故不審者を一気に捕縛しなかつたのか。出来る情勢であつたと思うが。

推測だが近藤勇は土方歳三と切腹するか、出頭するか、戦うかの内容を検討していたのであろう。

不審者かどうかかわからないものを捕えるわけにもいかなかつたのではないか

注意！捕縛：罪人に対して使う 不審者：疑わしい人に対して使う（訊問）

12. 近藤勇と土方歳三が戊辰戦争で戦つた場所。

近藤勇：甲州勝沼の戦い、

土方歳三：鳥羽・伏見の戦い、甲州勝沼の戦い、宇都宮城の戦い、壬生の戦い、母成峠の戦い、会津戦争、二股口の戦い（蝦夷）、箱館戦争

13. 流山に来た隊員が分散逗留した場所と人数は如何ほどだつたか。

恩田家の文書から光明院、流山寺、そのほかを借りて止宿していたとあり、人数は不明。

永岡屋、光明院、流山寺には止宿した記録が残っていない。

14. 流山での逗留時の村人との軋轢状況、新政府軍とはどのような衝突があつたのか。

項目2を参照。

15. 土蔵の壁についているカギはどのように使われるのか詳しくは知りたい。

外壁によく見かける先端が直角に上に曲がつた鉄釘は、「オレクギ（折れ釘）」といい、その根元周りの丸く膨らんだ部分は「マンジュウ（饅頭）」と呼称した。折れ釘は、工事中の足場の振れ止めにしたたり、普段ははしごを吊るしておいたり、また樋を受ける金物の役割も果たした。」

風雪や風雨に土蔵の壁の漆喰が直接さらされて痛むのを防ぐために板塀状の物（下見板張）を壁に垂直に止める金具として使用している。下見板張は夏場に外して乾燥させて季節が悪くなる前に保護のため使用する

16. 近藤勇・土方歳三の死亡した年齢が34歳と35歳があるが？

近藤勇：生年月日1834年10月9日、没1868年4月25日（満33歳6カ月）（享年35）

土方歳三：生年月日1835年5月5日 没1869年5月11日（満34歳6日）（享年35）

満年齢と享年との違いと思われる。

17. 近藤勇辞世の句を正しい姿に整備したらどうか。

現在ある物は個人所有物である。質問ではなく要望

18. ネットで拾ったこの画像は本物か。(隊員の写真添付)

ネット提供者に聞いてほしい

19. 新選組は何故流山に来たのか。新政府軍は流山に来た武装集団を新選組と認識していたのだろうか。永岡屋酒造にお咎めはなかったのか。

五兵衛新田にいた新選組は、新政府軍が千住を通るので戦いを避けるために流山に来た。

新政府軍は新選組と認識していなかった。永岡屋にお咎めがあったかどうかは不明。

永岡屋は、嶋屋に売り渡し、その後明治17年に、秋元藤之助が買収して秋藤商店(現秋元)になった。

20. 新選組来流の地元記録がない理由。

記録を残しておく、新政府からお咎めが来ることを心配して残さなかったと思われる。

永岡屋、光明院、流山寺にも新選組の記録を残していない

たった1泊で記録に残す必要があったかどうか。

21. 近藤勇は何故切腹を許されなかったのか。

新選組隊長として鳥羽・伏見の戦い、甲州勝沼の戦いで新政府軍に敵対し「大逆罪」とされたため切腹ではなく処刑された。

22. 近藤勇は何故甲府へ行かされたのか。新政府軍と甲府で戦うためか。

新政府軍による江戸城総攻撃(1868年3月15日)を回避するため、大久保一翁は抗戦派と目された新選組を江戸から排除するための策であったとされる。新選組が江戸にいたのでは西郷隆盛との交渉がうまくいかないといわれている。

23. 新選組の名はいつ消滅したのか。

京都から続く新選組は甲陽鎮撫隊と名前を変えた1868年3月で消滅した。以後、残党の中で新選組を名乗って戦った者もいる。

24. 新政府軍か官軍か。会として呼称を統一したほうが良い。

会として新政府軍で統一している。

25. 甲陽鎮撫隊と名前が変わったのに、現地では新選組と説明している理由

26. 近藤、土方の他に流山に来た幹部は誰か、新選組流山隊の資料にある数十名の隊員名を使ってよいか

27. 堀切家、秋元家などの資産家がどう対応したか知りたい

28. 須藤力五郎との関わりは無かったのか